

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900138		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家金山(1階)		
所在地	愛知県名古屋市中区池内町2番3号		
自己評価作成日	令和4年7月27日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_007_kani=true&JigyouCd=2390900138-00&ServiceCd=720&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和4年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たのしい家金山ではたのしさを基本として認知症の入居者様をありのまま受け入れ、「いきいきと自由な暮らし、穏やかで安らぎのある暮らし、自分らしさや誇りをもった暮らし」を理念とし、真の「いきいきと自由、穏やかさや誇り」を求め、ユマニチュードを取り入れて管理者をはじめスタッフが気持ちを一つにし、ケアに繋げていこうと日々努めています。毎日の散歩、毎月の季節のレクリエーション、イベント食を組み込んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目を迎えた2階建てのモダンな事業所は街中の幹線道路に面しており、賑やかな生活の息吹や便利さを感じる中に位置している。近くには大型ショッピングセンターや公園、市営住宅がある。「いきいきと自由な暮らし、穏やかでやすらぎのある暮らし、自分らしさや誇りをもった暮らし」を理念とし、真の「いきいきと自由、穏やかさや誇り」を求め、ユマニチュードを取り入れて管理者をはじめスタッフが気持ちを一つにし、ケアに繋げていこうと日々努めている。地域から温かい関心や協力のもとに、地域行事の参加や交流、外出や散歩など暮らしの楽しみも多くある中、今年もコロナ禍で難しい状況となっている。散歩で季節の木や花を眺めたり、庭先やベランダ、駐車場でお茶を楽しんだり、パーベキューを行ったりして外気に触れ開放感を味わいながら気分転換をしている。入居者は明るい居間で新聞やテレビを見たり、おしゃべりを楽しんだりして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、申し送り時に唱和し、共有して理念に繋げるようにしている。又日々のケアの中で理念との違いを感じた時は皆で注意し合い、意識の向上をはかっている。	会社の理念、ビジョンが揭示され目指す支援や目標が掲げられている。また「たのしい家金山」独自の目標もあり、毎朝の申し送りやカンファレンス時に唱和している。日常生活向上や振り返りを行い共有しながら目標に向けて日々取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で行事などがほぼ中止となっているが、花火大会やバーベキュー等外で開催する時は地域住民にお知らせするようにしている。	町内会に加入し、町内会長や地区の民生委員、町内便りから情報を得て地域行事に入居者と共に参加している。コロナ禍の中、以前のような関わりは難しくなっているが近所の方との交流がと切れないように事業所の催し時には参加の声掛けを行っている。散歩や民生委員との情報交換、地域の掃除に入居者と参加するなど地域との交流維持に向けて取り組みを続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の要望もあり、地域の相談拠点として貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響で書面開催となっている。町内会長、民生委員、保健委員、熱田区いきいき支援センターへ書面を送らせていただき意見交換をおこなっている。	家族や町内会長、民生委員、地域包括職員の参加を得て年6回推進会議を実施している。現在は対面での実施は難しいため、町内会長、地域包括、民生委員、家族へ書面開催とし、情報共有を図っている。サービス提供の要望について家族からは来所持に聞き取り、会議で協議をしてサービスに活かしている。議事録は要約した内容を郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な更新手続代行やイベント案内、業務上の報告に窓口を訪れ、関係性を深めている。又市で開催される講演会等でグループホームに関する講和も行っている。	介護保険の申請や更新、事業所報告などで担当窓口に出向き情報交換や連携を図っている。地域包括からの困難事例等の相談にも応じたり、相談事などで家族と共に役所へ出向く事もあり良好な関係が保たれている。情報はFAXやメール、電話連絡等で要件や問い合わせをすることが多くなっている。また認知症家族の会へ参加も実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに基づいた研修を行い共通認識を持ち、見守り支援に力を入れて極力制限しないように取り組んでいる。	会社による拘束に関する研修や運営推進会議時に身体拘束適正化委員会の開催し、拘束の状況を報告している。また、全職員がオンライン研修を受けることで正しい理解へつなげている。スピーチロックには特に注意を払い、丁寧に分かり易い声掛けに心がけ拘束のないケアの実施に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止研修を設けており、日常的にその防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度の人権研修の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や重要事項説明書を示しながら口頭で説明をしている。特に料金やサービス内容、出来る事・出来ない事を十分に説明する時間を設け同意を得てから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見は日々のケアの中から聞き取り、申し送りノートに記入し共有している。家族からは、面会の時等に入居者の状況を話すことにより意見を引き出すようにしている。	入居者からは日々の生活の中から意向や要望を聞いたり、動作や行動からくみ取っている。家族からは面会や行事など来所時に聴いていたが、コロナ禍においては、電話やオンライン面会などで意見や要望を聞くようにしている。会社によるアンケートも実施している。寄せられた意見や要望は職員間で話し合って運営に反映させている。ご意見箱を設置している。毎月発行している写真入りのお便りは家族に安心を届けている。	事業所便りは入居者個人の便りとして発行しているため、ホーム全体の生活やイベントなどの様子わ分かりにくい。内容の工夫をし生活状況などをより知って頂くような便りになることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な業務の中で、気付いたことをその都度職員は管理者に申し出ている。定期的な面談を実施し職員の要望や意見、悩みなどを聞く機会を設けている。	日々の申し送りやカンファレンス等で出た意見や提案は話し合い、早めに対応し運営に反映させるようにしている。管理者は何でも話しやすい環境作りに努めている。状況に応じてエリアマネージャーに相談できるシステムがある。会社によるアンケートと年2回の人事考課があり、職員は自己評価も踏まえてじっくり意見や要望、悩みなどを表出できる機会がある。外国籍の職員にも配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、「誰伸び人事制度」による昇給制度、処遇改善加算の金額+α支給、残業0推進、有給消化推進、業務改善提案書による業務改善+環境改善等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修を受ける機会を得られるように配慮している。タブレットで個々で研修を受けられるように環境を整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熱田区グループホーム連絡協議会に参加し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の訴えや不安に対して、出来る限り聞き取るようにしている。入居時にはアセスメントを実施し、スタッフに適時共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には生活歴等を聞き取り、ご家族様の要望等を明確にしている。入居されてからも毎月定期郵便を送り、開かれた環境を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在困っている事は何なのか、ご家族様の要望を聞く姿勢を常に意識している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「入居者様がホームの主役」という意識をスタッフ全員が持ち日々の生活が安心して送れるように毎月の会議にて話し合いを重ね、双方向の関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「入居者様に自分の家と思い生活していただく」という意識をスタッフ全員が持ち日々の生活が安心して送れるように毎月の会議にて話し合いを重ね双方向の関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	フェースシートで生活歴や馴染みの関係を把握し、それを維持できるよう支援している。	フェイスシートや本人の会話の中から馴染みの場所や知人のこと等を聞き、買い物や散歩時に気軽に立ち寄りしたりしていたが、コロナ禍で馴染みの場所や直接会いに行くことは難しくなっている。可能な限り外に出向く機会を作りドライブや散歩を維持している。年賀状を出したり、家族との手紙のやり取り、馴染の美容院、古着を利用した布製のわらじ作りなどの維持を目指している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブルの席は、ご本人の意向を重視しつつも入居者同士の関係を常に意識し必要があれば早期に席替えを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居継続が困難な方に対して、医療体制が充実した提携施設の紹介等、最後まであらゆる方向から支援させて頂く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いの表出の少ない入居者の意向は、日々のケアの中で表情や会話の中から把握するよう努めている。又ご家族様からの情報を得るようにしている。	日々のケアの中で声かけを密に行いながら、お互いの信頼関係を築くようにしている。本人の言動や反応、表情などから意向や希望を確認し出来る限り希望に添えるよう努めている。本人の生活リズムを大切にし消灯時間もその方に合わせたり、のんびりした時間に話をするなど本人本位に検討し、介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	キーパーソンとなるご家族様から生活歴を伺うこと以外に、面会に来ていただける知人の方、紹介して下さったケアマネージャー、ケースワーカーさんとの情報交換に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握しグループホームとして「出来る事」に視点を置いた稼働を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族の思いなどを聞き、管理者、リーダーで計画を作成している。カンファレンスは月1回行い、モニタリング、計画の見直しは必要があればその都度行っている。	月一度のカンファレンスを行い、状況の変化や評価を行っている。モニタリングとプラン見直しは6か月ごとに実施している。家族の思いなどは面会時に確認している。状況の変化や気づきは申し送りノートやタブレットに記載し注意事項の共有・反映させている。協力医からの情報も含め本人に寄り添ったプラン作成としている。	6ヶ月に1度のモニタリング・計画書作成までの変化が読み取れる評価表の活用など職員が周知できる工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、利用者さんの様子や職員との関わり、気付いた事柄を朝の1階・2階合同の申し送りにより職員で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、ご家族の希望に添う為、多様な支援を行っている。専門医への通院や入院中の支援、買い物など、医療依存度が高くなった際にはドクターと連携しての多様なサービス対応等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園内の畑に植える野菜の種の提供など、地域密着のネットワークを広げるよう務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医と提携医を選択していただき、かかりつけ医の受診も可能である。月二回の往診や24時間体制での往診が可能であり適切な医療を受けられるよう支援をしている。	協力医を主とした医療体制となっている。内科医が月2回、歯科診察が月1度、訪問看護は週1度連携が計れている。診察情報は医師から直接、家族へ届けられ家族の安心に繋がっている。施設との関係は良好で24時間の体制が確保されている。かかりつけ医や皮膚科や眼科等専門医受診は家族の協力を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回看護師による定期健診を行い連絡、相談を随時行い情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時はご本人の情報、薬情などを提供し、入院中はコロナ禍でなければ出来る限り面会を行うようにしている。適宜医師、家族と相談しながら1日でも早く退院に繋げるよう働きかけに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにしている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を確認し最善の援助が出来るようにしている。	重度化や終末期に向けた事業所としての方針を、入居時に説明し同意を得ている。状態に変化があった場合は早い段階から家族と話し合い、医療関係者とも連携を取り、事業所で出来ることを十分に説明しながら再度の意思確認を行っている。看取り介護を行う場合は家族や医療関係者、職員間で情報を共有し、最善な介護が出来るよう取り組んでいる。またカンファレンスを重ね職員が不安なく支援提供できるように体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生のマニュアルを各スタッフに伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、夜間及び日中を想定し、入居者参加で避難訓練を実施している。備蓄は水害を想定して二階に確保している。	年2回の地震・火災の訓練を実施。マニュアルやBCP対策の実施、備蓄品の確保・管理帳も整っている。避難場所は消防署の指示の元、確定している。地域の集合住宅への避難確保や連携体制もある。今後は水害についても検討する様にしている。	年2回の地震・火災訓練のとどまらず水害時における避難についても計画を立て、実施していくことを願いたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を持って接している。接遇や人権に関する研修を毎年行い、職員の意識を高めるように努めている。	人生の先輩として敬意を持って接することを基本に、言葉の使い方や声のトーン等、個々の入居者に合わせた使い方などを日常の申し送りやカンファレンスで話し合いケアに活かすよう努めている。ユマニチュードを取り入れ、カンファレンス等で振り返りと評価をしている。人権に関する法人の研修会に参加している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活のペースはご本人の希望に出来る限り添えるように日常から気を付けている。買い物の希望があれば職員と一緒に出かけ、選択して頂くように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が業務に追われ、入居者を俟たせてしまうことがないよう気を付けている。昼寝をする習慣がある方には昼寝の時間を作るなど、最大限入居者の希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度、訪問美容の実施。着替えなどは出来る方はご本人に任せ自由に着こなしていただいている。出来ない方にも職員が今日はこの服どうですか？等声をかけお聞きするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を基に調理をしている。入居者の希望を取り入れた献立や月1回の食事レクや手作りおやつ、イベント時にケーキを作ったりするなどして、食事が楽しめるようにしている。	食材やメニューは業者に委託しているが、調理は各ユニットで職員が行っている。季節に合わせた内容やイベント食など楽しみが持てる食事内容に留意している。現在はコロナ感染予防のため調理に加わっていないが、後かたづけやテーブル拭き等は入居者の能力に応じて職員と一緒にやっている。誕生会の手作りケーキや職員が寿司職人に扮して寿司を握ったり、鰻の出前を取ったり、テラスでバーベキューを楽しんだりして食の楽しみを継続する様に工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に残し職員で意識の共有を行っている。水分は何種類かの飲み物を用意し入居者が好きな物を選んで飲んでいただけるようにしている。食事は宅配業者を利用し、ご本人の生活リズムに合わせ内容を変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来る方は見守り、出来ない方は職員の介助などで行う。義歯の方も毎食後取り外し洗浄するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握することにより声掛けを行い、座位での排泄を促している。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。	排泄チェックシートの活用や一人ひとりパターンを把握し、声掛けや手引き誘導を行いトイレ排泄を維持している。夜間もトイレ排泄の支援を実施している。ユマニチュード支援が活かされ紙パンツの方が布パンツに変更された方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護日誌により排便の記録をつけ、職員で共有している。朝全入居者、決まった時間にトイレへ誘導し、便座に座っていただくようにする等配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2~3回程度入浴できるよう支援している。湯は毎回入れ替え、状況により同性介助の要望にも応えている。基本的には日中は入浴時間ではあるが、夜間の入浴にも状況により対応出来る。	週に2~3回程度の入浴を基本としているが、希望があれば毎日でも可能としている。本人の身体状況に合わせて2人介助で支援を行う事もある。季節のゆず湯やしょうぶ湯や入浴剤で楽しんでいる。一人ひとり湯の交換やバスマットの交換を行い、清潔で気持ち良い入浴に繋げている。入浴後は保湿対応も実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状況に応じて、居室で臥床を促している。夜間は特に就寝時間は設けてなく、個人のペースに合わせ声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出してもらっている薬情などはファイルに収め職員が閲覧できるようにしている。不明な点があれば、その都度薬剤師に確認する体制が取れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人ごとに生活歴を活かして役割を持っていただけるように支援している。毎月のレクリエーション等で楽しみを提供出来るように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には毎日、午前や午後に入居者2名程度に職員が同行して、散歩に外出している。また、庭で作物の手入れを行うなど、屋外での活動の支援も行っている。	コロナ禍ではあるが、状況や感染に注意したうえで、桜や紅葉など季節の花見や初詣など戸外へ出かける機会を設けている。また制限を設けたうえで家族と一緒に外に出る事も可能としている。近所への散歩、菜園の手入れや職員と共に資源ごみを集積場へ持っていくなど日常的な外出へ繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望で少額のお金を持っている入居者がいる。買い物の時ご自身でお金を払って頂けるように支援している。ご家族からお預かりしている預り金は事務所で保管し、買い物の時にご本人が支払えるよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で入居された時から携帯電話を持ってみえる人がいる。ホームにご家族から電話がかかってきたら要望に応じて取り次ぐようにしている。また本人が家族に電話をかけたいと言われた時もすぐにかけてもらえるよう援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはイベント時の写真を掲示することにより、家族に入居者の生活が伝わるように工夫している。長い廊下には坪庭が設けられ、庭木を眺め四季の変化を感じて頂いている。	事業所内は明るく、清掃もいきとどいている。車椅子を使用している方は、食事や寛ぎなど生活状況に合わせてソファや椅子に座り替えるなどの対応をしている。居間の壁面は入居者と共に作成した季節の作品が飾られ、また、廊下にはイベント時の写真が飾られ落ち着いた空間作りとなっている。散歩時に近所の方から頂いた切花を花瓶に挿し、家庭的な雰囲気の中で、入居者はテレビを観たり職員と歓談しながらゆったり過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファ、廊下にもソファを置いて居場所の工夫をしている。気の合った入居者同士は食事の時も席を隣にするなど援助を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が、それぞれ気に入ったものを持ち込んで居室を自分の居場所としている。写真を飾ったりして生活の継続性を維持し、心地よく過ごせるよう配慮している。	畳模様の床となっており、和風で落ち着ける雰囲気がある。入居時には家族と相談をして慣れ親しんだ家具や小物、写真などを持ち込んだり、仏壇や位牌を置かれ自宅にいるような安らげる空間を作っている。職員と一緒にほうきで掃き掃除をしたり、自身で洗濯を干したりしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室に手すりを設置。トイレの場所がわからなくなる入居者の為にトイレの扉にトイレと書いて、その人がより自立した生活が送れるよう配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390900138		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家金山(2階)		
所在地	愛知県名古屋市中区池内町2番3号		
自己評価作成日	令和4年7月27日	評価結果市町村受理日	令和5年3月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_007_kani=true&JigyosyoCd=2390900138-00&ServiceCd=720&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	令和4年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

たのしい家金山ではたのしさを基本として認知症の入居者様をありのまま受け入れ、「いきいきと自由な暮らし、穏やかで安らぎのある暮らし、自分らしさや誇りをもった暮らし」を理念とし、真の「いきいきと自由、穏やかさや誇り」を求め、ユマニチュードを取り入れて管理者をはじめスタッフが気持ちを一つにし、ケアに繋げていこうと日々努めています。毎日の散歩、毎月の季節のレクリエーション、イベント食を組み込んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目を迎えた2階建てのモダンな事業所は街中の幹線道路に面しており、賑やかな生活の息吹や便利さを感じる中に位置している。近くには大型ショッピングセンターや公園、市営住宅がある。「いきいきと自由な暮らし、穏やかでやすらぎのある暮らし、自分らしさや誇りをもった暮らし」を理念とし、真の「いきいきと自由、穏やかさや誇り」を求め、ユマニチュードを取り入れて管理者をはじめスタッフが気持ちを一つにし、ケアに繋げていこうと日々努めている。地域から温かい関心や協力のもとに、地域行事の参加や交流、外出や散歩など暮らしの楽しみも多くある中、今年もコロナ禍で難しい状況となっている。散歩で季節の木や花を眺めたり、庭先やベランダ、駐車場でお茶を楽しんだり、パーベキューを行ったりして外気に触れ開放感を味わいながら気分転換をしている。入居者は明るい居間で新聞やテレビを見たり、おしゃべりを楽しんだりして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は、申し送り時に唱和し、共有して理念に繋げるようにしている。又日々のケアの中で理念との違いを感じた時は皆で注意し合い、意識の向上をはかっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で行事などがほぼ中止となっているが、花火大会やバーベキュー等で開催する時は地域住民にお知らせするようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々の要望もあり、地域の相談拠点として貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の影響で書面開催となっている。町内会長、民生委員、保健委員、熱田区いきいき支援センターへ書面を送らせていただき意見交換をおこなっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な更新手続代行やイベント案内、業務上の報告に窓口を訪れ、関係性を深めている。又市で開催される講演会等でグループホームに関する講和も行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルに基づいた研修を行い共通認識を持ち、見守り支援に力を入れて極力制限しないように取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止研修を設けており、日常的にその防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に一度の人権研修の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や重要事項説明書を示しながら口頭で説明をしている。特に料金やサービス内容、出来る事・出来ない事を十分に説明する時間を設け同意を得てから契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の意見は日々のケアの中から聞き取り、申し送りノートに記入し共有している。家族からは、面会の時等に入居者の状況を話すことにより意見を引き出すようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的な業務の中で、気付いたことをその都度職員は管理者に申し出ている。定期的に面談を実施し職員の要望や意見、悩みなどを聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、「誰伸び人事制度」による昇給制度、処遇改善加算の金額+α支給、残業0推進、有給消化推進、業務改善提案書による業務改善+環境改善等に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員が研修を受ける機会を得られるように配慮している。タブレットで個々で研修を受けられるように環境を整備している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	熱田区グループホーム連絡協議会に参加し情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の訴えや不安に対して、出来る限り聞き取るようにしている。入居時にはアセスメントを実施し、スタッフに適時共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には生活歴等を聞き取り、ご家族様の要望等を明確にしている。入居されてからも毎月定期郵便を送り、開かれた環境を心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在困っている事は何なのか、ご家族様の要望を聞く姿勢を常に意識している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「入居者様がホームの主演」という意識をスタッフ全員が持ち日々の生活が安心して送れるように毎月の会議にて話し合いを重ね、双方向の関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「入居者様に自分の家と思い生活していただく」という意識をスタッフ全員が持ち日々の生活が安心して送れるように毎月の会議にて話し合いを重ね双方向の関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	フェースシートで生活歴や馴染みの関係を把握し、それを維持できるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングのテーブルの席は、ご本人の意向を重視しつつも入居者同士の関係を常に意識し必要があれば早期に席替えを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居継続が困難な方に対して、医療体制が充実した提携施設の紹介等、最後まであらゆる方向から支援させて頂く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いの表出の少ない入居者の意向は、日々のケアの中で表情や会話の中から把握するよう努めている。又ご家族様からの情報を得るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	キーパーソンとなるご家族様から生活歴を伺うこと以外に、面会に来ていただける知人の方、紹介して下さったケアマネージャー、ケースワーカーさんとの情報交換に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを把握しグループホームとして「出来る事」に視点を置いた稼働を心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者や家族の思いなどを聞き、管理者、リーダーで計画を作成している。カンファレンスは月1回行い、モニタリング、計画の見直しは必要があればその都度行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、利用者さんの様子や職員との関わり、気付いた事柄を朝の1階・2階合同の申し送りにより職員で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者、ご家族の希望に添う為、多様な支援を行っている。専門医への通院や入院中の支援、買い物など、医療依存度が高くなった際にはドクターと連携しての多様なサービス対応等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	園内の畑に植える野菜の種の提供など、地域密着のネットワークを広げるよう務めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医と提携医を選択していただいております。かかりつけ医の受診も可能である。月二回の往診や24時間体制での往診が可能であり適切な医療を受けられるよう支援をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一回看護師による定期健診を行い連絡、相談を随時行い情報を共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はご本人の情報、薬情などを提供し、入院中はコロナ禍でなければ出来る限り面会を行うようにしている。適宜医師、家族と相談しながら1日でも早く退院に繋げるよう働きかけに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにしている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合はその都度入居者や家族に希望を確認し最善の援助が出来るようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生のマニュアルを各スタッフに伝えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、夜間及び日中を想定し、入居者参加で避難訓練を実施している。備蓄は水害を想定して二階に確保している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬意を持って接している。接遇や人権に関する研修を毎年行い、職員の意識を高めるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活のペースはご本人の希望に出来る限り添えるように日常から気を付けている。買い物の希望があれば職員と一緒に出かけ、選択して頂くように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が業務に追われ、入居者を俟たせてしまうことがないよう気を付けている。昼寝をする習慣がある方には昼寝の時間を作るなど、最大限入居者の希望に添えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度、訪問美容の実施。着替えなどは出来る方はご本人に任せ自由に着こなしていただいている。出来ない方にも職員が今日はこの服どうですか？等声をかけお聞きするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立表を基に調理をしている。入居者の希望を取り入れた献立や月1回の食事レクや手作りおやつ、イベント時にケーキを作ったりするなどして、食事が楽しめるようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録に残し職員で意識の共有を行っている。水分は何種類かの飲み物を用意し入居者が好きな物を選んで飲んでいただけるようにしている。食事は宅配業者を利用し、ご本人の生活リズムに合わせ内容を変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来る方は見守り、出来ない方は職員の介助などで行う。義歯の方も毎食後取り外し洗浄するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握することにより声掛けを行い、座位での排泄を促している。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な見守りの支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護日誌により排便の記録をつけ、職員で共有している。朝全入居者、決まった時間にトイレへ誘導し、便座に座っていただくようにする等配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2~3回程度入浴できるよう支援している。湯は毎回入れ替え、状況により同性介助の要望にも応えている。基本的には日中は入浴時間ではあるが、夜間の入浴にも状況により対応出来る。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の状況に応じて、居室で臥床を促している。夜間は特に就寝時間は設けてなく、個人のペースに合わせ声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出してもらっている薬情などはファイルに収め職員が閲覧できるようにしている。不明な点があれば、その都度薬剤師に確認する体制が取れている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人ごとに生活歴を活かして役割を持っていただけるように支援している。毎月のレクリエーション等で楽しみを提供出来るように心がけている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的には毎日、午前や午後に入居者2名程度に職員が同行して、散歩に外出している。また、庭で作物の手入れを行うなど、屋外での活動の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望で少額のお金を持っている入居者がいる。買い物の時ご自身でお金を払って頂けるように支援している。ご家族からお預かりしている預り金は事務所で保管し、買い物の時にご本人が支払えるよう援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で入居された時から携帯電話を持ってみえる人がいる。ホームにご家族から電話がかかってきたら要望に応じて取り次ぐようにしている。また本人が家族に電話をかけたいと言われた時もすぐにかけてもらえるよう援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはイベント時の写真を掲示することにより、家族に入居者の生活が伝わるように工夫している。長い廊下には坪庭が設けられ、庭木を眺め四季の変化を感じて頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファ、廊下にもソファを置いて居場所の工夫をしている。気の合った入居者同士は食事の時も席を隣にするなど援助を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が、それぞれ気に入ったものを持ち込んで居室を自分の居場所としている。写真を飾ったりして生活の継続性を維持し、心地よく過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室に手すりを設置。トイレの場所がわからなくなる入居者の為にトイレの扉にトイレと書いて、その人がより自立した生活が送れるよう配慮している。		